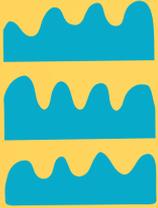


HAMACUL. ART 2025 PROJECT



REPORT

ハマカルアートプロジェクト 2025 記録集

ハマカルアートプロジェクトのこれからを考えてみる

東日本大震災において、津波や地震、原子力災害による影響を色濃く受けた地域、福島県・浜通り。経済産業省 福島芸術文化推進室では、映像・芸術文化等を通じた魅力あるまちづくりを推進しており、その一環として「ハマカルアートプロジェクト」（通称：ハマカル）において2023年よりこれまで3年間にわたって、様々な芸術家・学生の滞在制作を支援してきました。

その歩みと共に歩んできた私は、「ハマカルがこの地域に何を残すことができるのか」という問いを抱え続けています。地域の視点に立てば、「浜通りはハマカルから何をすることができるのか」という問いにもつながりますが、その答えは見つかっておらず、今も自問自答しながら探し続けています。

アートはすぐに形にならない変化の種のようなもので、その芽は、土地と人との関わりの中で静かに育っていきます。そうすると、その答えは当然、芸術文化推進室やアーティストだけが決めるものではなく、植えられた種を浜通りの人々と一緒に芽吹かせていくことで、いつのまにか発見されていくのではないかと考えています。

本書には、この1年間に生まれた小さな種の記録が残されています。ページをめくることで、みなさまにもこの問いが共有され、ハマカルのこれからを見守り続けていけたならと思っています。

経済産業省 福島芸術文化推進室

志村 環太

- 02 『ハマカルアートプロジェクトのこれからを考えてみる』
- 03 目次・事業者一覧・マップ
- 04 ハマカルアートプロジェクト2025／実施スケジュール・実績

事業報告

滞在制作型（9事業者）

- 06 一般社団法人 とおがったプロジェクト 活動地域「葛尾村・双葉町」01
「これまで。これから、」
- 08 Hi there 合同会社 活動地域「南相馬市」02
「Unrecorded Landscapes 記録されない風景に価値を与える NFT アートプロジェクト」
- 10 合同会社 シネマ健康会 活動地域「川内村・楡葉町・富岡町」03
「福島県12市町村ロケ映画プロジェクト～映画制作&ワークショップ&上映～」
- 12 旅するたつき場 活動地域「楡葉町」04
「旅する身体を通じ地域の魅力や課題を多角的に捉え直し発信する4+1編のアートプロジェクト」
- 14 松本 律子 活動地域「川俣町」05
「[Dear KAWAMATA]- 民話を語る -」
- 16 永井 文仁 活動地域「双葉町・浪江町」06
「視覚と身体で記憶を呼び起こす写真による地域再発見プロジェクト」
- 18 一般社団法人 オムスビ 活動地域「南相馬市小高区」07
「レジデンスを設計する～地域とともに考える、地域とアートの新しい関係」
- 20 秋元 菜々美 活動地域「富岡町」08
「土地の時間を巡る滞在制作事業」
- 22 ブルーエゴナク 活動地域「広野町」09
「広野町をガイドする」

学生制作型（4事業者）

- 24 学校法人 東北芸術工科大学 活動地域「楡葉町」10
「東北画は可能か?月歴画」
- 26 株式会社 キネマ旬報企画 活動地域「双葉町」11
「福島浜通りシネマプロジェクト 2025」
- 28 ガッチ 株式会社 活動地域「浪江町」12
「浪江学生デジタルアート道場 2025 Digital Growth」
- 30 日本大学理工学部 活動地域「富岡町・南相馬市」13
「"私"的世界遺産劇場」

事業者開催企画・イベント一覧

- 34 Report HAMACUL ART PROJECT トークイベントvol.4「福島とアートで交わる」
HAMACUL ART WEEK (ハマカルアートウィーク)

Comments

- 38 謝辞



ハマカルアートプロジェクト 2025

ハマカルアートプロジェクト 2025 は、福島県の浜通りを中心とした福島12市町村*1において、芸術家や学生の創造的活動や、創造的活動の運営を行う事業者を支援するプロジェクトです。

ジャンルを問わず、アーティストやクリエイターが地域を舞台に様々な活動を行い、地域の歴史、伝統、生活、文化の再発見、住民との交流を生み出し、地域への創造的な価値が生み出されることを目指しています。

今年度は、芸術家が一定期間地域に滞在して行うアート活動を支援する「滞在制作型」と学生が主体となって行う創造的活動を支援する「学生制作型」の2種類を実施しました。

※1 東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴い避難指示等の対象となった、福島県田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村及び飯館村を指します。

実施日程 【公募期間】

2025年5月16日～6月20日 公募期間

2025年6月7日 申請前 福島12市町村マッチング会

【採択者活動期間】

2025年8月上旬～2026年2月13日 採択者活動期間

【事務局主催イベント】

2025年8月9日 HAMACUL ART PROJECT 2025 キックオフミーティング

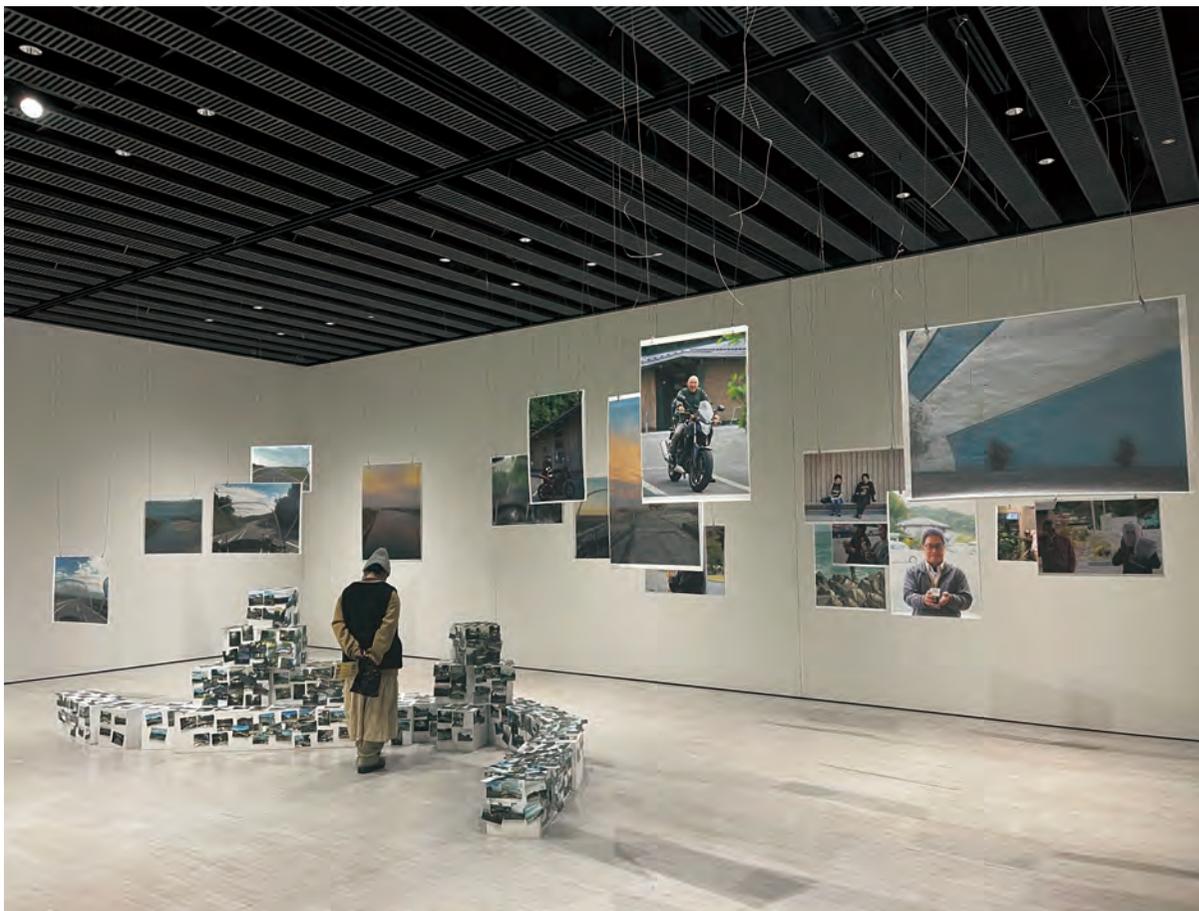
2025年11月27日 HAMACUL ART PROJECT 2025 トークイベント vol.4 福島とアートで交わる

2026年1月31日～2月8日 HAMACUL ART WEEK (ハマカルアートウィーク)

実績	応募総数	38件
	活動事業者数	13事業者
	実施地域	12市町村全域
	滞在人数	アーティスト滞在人数38名/学生滞在人数46名
	地域内での交流人数*	1,786名

※主催イベントの参加人数、イベント出店時のイベント参加人数等の延べ人数





分類 潜在制作型

事業者名 一般社団法人 とおがったプロジェクト

プロジェクト名 これまで。これから、

活動地域 葛尾村・双葉町



事業者サイト



事業紹介

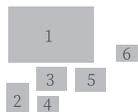
5組のアーティストが葛尾村と双葉町で地域の方々との交流やワークショップを通じ、復興の意味を異なる立場や視点から実感し、制作活動を展開する。

事業の展望

2年目の今回、ようやく沿岸部に地に足をつけてのリサーチが出来ました。土地、人、文化、さまざまな視点でのリサーチから分かったことは、「残していくこと」と、「目の前の人を楽しませること」でした。瞬間的な心の動きを大事にしながら、これからの地域内外の方々の為に残していくこと。この相反する2つを大事に携え、私たちの活動はこれからも続いていきます。

アーティストからの声（FMP フクダマコトフォトグラフィー／フクダマコト）

今回初めてプロジェクトに参加したことで、これまで知らず、足を運ぶことすらも躊躇していた福島県沿岸部が本当に好きになりました。冬場だけでも、ここに住み、穏やかな場所でゆっくりとした時を過ごしたいと強く思いました。



1. 展示「せんだいメディアテーク」
2. リサーチまとめのブリーフィング
3. ちんどんパフォーマンス「葛尾村復興交流館あぜりあ」
4. リサーチ「双葉町役場」
5. 展示「うちの居間 分館」
6. リサーチ「高瀬川（葛尾村）」





分類 潜在制作型

事業者名 Hi there 合同会社

プロジェクト名 Unrecorded Landscapes

記録されない風景に価値を与える NFT アートプロジェクト

活動地域 南相馬市



プロジェクトサイト

事業紹介

南相馬の日常風景を住民インタビューとともに記録し、NFT アートで残すデジタルアーカイブ。過去を頼りに今を記録し、未来の手がかりにする。

事業の展望

本プロジェクトで確立した「住民インタビュー→撮影→NFT アーカイブ化」の手法は、他地域の記憶保存にも応用可能なモデルとなります。IPFS 永続保存とブロックチェーン技術により、中央集権的サーバーに依存しない分散型アーカイブとして、長期的な記録継承インフラを構築しました。Issue2以降で他地域展開を計画し、各地の「記録されない風景」をシリーズ化していきます。物理的な ZINE、デジタル NFT、実物展示という多層的なアプローチにより、多様な世代・関心層へのアクセスを実現し、地域の記憶を次世代につなぐ持続可能な仕組みを目指します。

アーティストからの声 (FRIDAY SCREEN / 鈴木 孝昭・坂内 まゆ子)

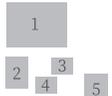
本プロジェクトでは20代から60代まで幅広い世代へのインタビューを通じて、南相馬を多層的に記録することができました。特に震災後に成人した20代の視点は他世代と異なる特徴を持ち、記憶継承における世代間の認識差を可視化できた点は重要な成果です。また英語サイト制作と SNS 広告により国際発信を実施し、フランスを中心に海外からのアクセスを獲得できたことは、デジタルを通じた新たな交流人口創出の可能性を示しています。



Unrecorded Landscapes



南相馬市



1. NFT化した風景写真「原ノ町駅」
2. プロジェクトサイト
3. 展示風景
4. ワークショップ
5. インタビュー





分類 潜在制作型
 事業者名 合同会社 シネマ健康会
 プロジェクト名 福島県12市町村ロケ映画プロジェクト
 映画制作 & ワークショップ&上映
 活動地域 川内村・楡葉町・富岡町

事業紹介

川内村を中心に、福島12市町村で「ゼロからの創作」手法のもと、地域の方々との共創で土地の声から新たな物語を紡ぎ、文化交流を促進する映画制作を実施する。

事業の展望

今回制作した長編映画をより多くの方に届けるため、まずは国内外の映画祭への出品を予定しています。
 その後、浜通りを含む日本各地での劇場公開や自主上映会など、幅広い形で上映の機会を広げていきます。
 作品が浜通りへの関心を持つきっかけとなれば幸いです。
 また、本作で得た経験やつながりを活かし、今後の映像制作や次回作にも繋げていきたいと考えています。

アーティストからの声（合同会社 シネマ健康会／松本 卓也）

現地での取材や演技ワークショップ、映画撮影、上映を通じて、大勢の地域の方々とお会いする機会がありました。
 そこでの出会いや日々のやりとりは、私たちにとって貴重な経験となり、制作における大きな糧となっています。
 更に今年度は川内村に加えて楡葉町、富岡町、田村市でも取材・ワークショップ・撮影・上映を行い、活動の範囲を広げることに挑戦しました。
 昨年度からの取り組みをさらに深める機会となったと感じています。
 2月の試写会では多くの方々へ足を運んでいただき、作品を通じて地域の方々と時間を共有できたことが印象に残っています。
 少しずつではありますが、関心やつながりが広がっていることを感じました。
 この経験を励みに、今後も自分たちの得意分野である映画を通じて浜通りと関わりを続けていきたいと思っています。



1
2 4
3 5

- 1.ワークショップ風景「楡葉町」
- 2.撮影風景「天神岬スポーツ公園」
- 3.撮影風景 川内村の人々と
- 4.試写会風景「川内村」
- 5.試写会風景「富岡町」





分類 滞在制作型

事業者名 旅するたたき場

プロジェクト名 旅する身体を通し地域の魅力や課題を多角的に捉え直し発信する4+1編のアートプロジェクト

活動地域 檜葉町



活動記録

事業紹介

檜葉町での関係性を昨年よりさらに深め、地域の魅力を再発見するためのZINEを第三者のまなざしで制作する。制作活動を通じて地域の人々と外部の人々との間に対話を創出する。

事業の展望

今年度は、昨年度の活動を通して獲得した知見や反省にメンバーそれぞれが向き合い、地域の過去・現在・未来や、土地と人の関係性をあらためて多角的に捉え直す取り組みを行いました。メンバー一人一人が企画を運営・実施までマネジメントしたほか、活動の集大成となるZINEではこれまでの活動全体の総括をし、また、町民が地域社会を見つめ直す機会を創出するとともに、町の魅力や課題、人々の営みを外部へ発信することを目指しました。

アーティストからの声（旅するたたき場／星 善之）

今年度は地域の方々と繋がりを持ちながら各メンバーが興味を迫るプロジェクトを行いました。どれも地域の方々の協力なくしては成し得ないことなので地域のサポートに感謝しています。

また、当初予定していた企画の他にも町のイベントでパフォーマンスをさせていただいたり相互的な協力関係になり始めていると思っています。

檜葉町に通い始めて2年以上が経ち、私たちのことを知ってくれたり気にかけてくださる方々が少しずつ増えてきている実感があり、嬉しく思っています。



- 1.ワークショップ風景 くものうえのあそびば
- 2.徒歩旅行劇
- 3.フリーマリンバ クリスマスコンサート
- 4.インタビュー 耳で聴く檜葉MAP
- 5.パフォーマンス 檜葉町芸能発表会



分類 滞在制作型

事業者名 松本 律子

プロジェクト名 [Dear KAWAMATA] - 民話を語る -

活動地域 川俣町

事業紹介

川俣町に息づく豊かな民話と「民話の会」に着目し、失われつつある方言の魅力を大切にしながら、マリンバと融合させた音楽作品として地域の財産を世界に発信する。

事業の展望

ハマカル初参加の24年度は、川俣で採集した音を音楽作品としてまとめ、公開することからスタートしました。2度目となる今回は、さらに具体的に地元のお役に立てることを考え、川俣町とも積極的な連携を目指しました。「民話の会」による語り映像は、川俣町公式サイトにある民話のテキストアーカイブを補完するものとなるよう動画共有サイトに20数話をまとめて公開し、また音楽作品は、BGMなどとして自由に使っていただけるよう著作権フリーとしました。今後も川俣の「音」に耳を傾け、その可能性を模索していきたいと考えています。

アーティストからの声（松本 律子）

「何か音楽の素材となるイイ材料はないだろうか。そんな軽薄な考えはこのプロジェクトにおいては無意味でした（宝物を求めて隣の心のやさしいおじいさんのマネをしてひどい目にあう悪だくみのじいさんのように）。真正面から民話と向き合い、教えを乞い、自らの足で歩いて出会った宝物は、今現在川俣に暮らす町のみならずまでした。お力をいただきました事に心より感謝をしつつ、今後もこの活動を続けてまいります。



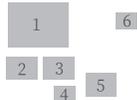
YouTube チャンネル
かわまたの民話をきく



音楽アルバム
ambient KAWAMATA



音楽アルバム
Dear KAWAMATA 2



- 1.ワークショップ かわまたハーベスト「旧飯坂小学校」
- 2.ワークショップ 川俣の民話語りを聞こう「おりもの展示館」
- 3.ワークショップ 子育てはっとステーション「川俣町保健センター」
- 4.動画撮影の様子「川俣町中央公民館」
- 5.ワークショップ 民話とマリンバのコンサート「かわまた認定こども園」
- 6.かわまた民話の会のみなさまと「川俣町中央公民館第二展示室」



分類 滞在制作型

事業者名 永井 文仁

プロジェクト名 視覚と身体で記憶を呼び起こす
写真による地域再発見プロジェクト

活動地域 双葉町・浪江町

事業紹介

震災後、人の不在となった風景に宿る時間の気配をすくい取り、身体的没入感を伴う大判写真として可視化する。喪失の余白が刻まれた土地の記憶と対峙する場をつくり出す。

事業の展望

本事業は、震災後、人の気配だけが消えた空白の風景に残る時間を、大型の印画紙に写し取った写真によって提示する取り組みです。そのイメージの前に立つこと自体が、土地の記憶と静かに向き合う行為になると考えています。作品を介して身体に生まれる感覚を分かち合いながら、言葉だけでは届かない対話が生まれる場を、少しずつ広げていきたいと思っています。

アーティストからの声（永井 文仁）

今回のプロジェクトを通して、震災後の風景と改めて向き合う時間を持つことができました。今後数年間は、原発事故の影響を受けた12市町村を中心に制作を続け、この土地に立ち現れる時間や記憶を丁寧にすくい取りたいと考えています。そして、この場から生まれる表現を一つの美術のかたちとして育て、国内外に向けて発表していきたいと思っています。



1 2 3

1.制作風景 撮影①

2.制作風景 撮影②

3.制作場所風景

4.展示風景

4



- 分類 滞在制作型
- 事業者名 一般社団法人 オムスピ
- プロジェクト名 レジデンスを設計する
——地域とともに考える、地域とアートの新しい関係
- 活動地域 南相馬市小高区

事業紹介

小高区でまちづくりを継続し、複数のアーティストと共に地域資源を再発見しながら、住民との交流を通じて創造的な地域づくりと地域とアートの関わり方をリサーチする。

事業の展望

復興事業で劇的な変化を促される地域ですが、一方で地域に元々あった文化や本来の復興の当事者である住民が置き去りにされているとの懸念もあります。その中で、無理に地域への影響を求めずアートやアーティストを地域の日常に溶け込ませていく場として「ただそこにある」というコンセプトを言語化できたことに手応えを感じています。

来年度以降、このコンセプトが実際に持続・機能していくことを証明する必要があります。拠点としての機能や提供価値を高めつつ、アーティストと連携した企画や商品開発などを行っていきます。

アーティストからの声（竹下 和輝）

夏から冬にかけて、約半年間南相馬市の小高に滞在しました。滞在が始まってすぐはどのようにこの町と接すればいいのかかわからず、リサーチをしても表面をなぞるだけのような気がして戸惑いました。しかし地域の方との交流が進むうちに、この町で簡単に答えを出すのは止めようと思うようになりました。じっくり滞在し、丁寧に観察を続けることで自ずと答えに導かれるのだと信じたのです。地域の方には、生活の面でもたくさん支えていただき、気づけばこの町が好きになっていました。今後も福島を訪れたいと思える良いレジデンスでした。



1. DIYワークショップ
2. クロストーク
3. 大こたつ布団制作中の様子





分類 滞在制作型
 事業者名 秋元 菜々美
 プロジェクト名 土地の時間を巡る滞在制作事業
 活動地域 富岡町

事業紹介

富岡町で「土地の時間につわる滞在制作事業」を実施。建築集団ガラージュおよびパフォーマンスユニット humunus の滞在制作を実施し、人々のクリエイティビティを喚起するようなアートプロジェクトを行います。

事業の展望

除染や解体が進み空き地の広がっていることが課題としてありますが、視点を変え私有地・町有地を活用した表現活動を行うことで、地域へのポジティブな影響を与えることを目指しています。地域の方々とアーティストが丁寧に関係を築き、空き地が活用される価値が浸透することで、関わる人たちが自身が「町のデザイン」を担う新たなまちづくりへの意欲を醸成します。今年度はその実践として humunus による野外上演『塵と汐のみち』ツアーの制作と、ガラージュによる「夜の森穴火祭り」を実施しました。土地の記憶を呼び起こす制作を通じ、社会への新たな波及を試みます。

アーティストからの声（ガラージュ）

昨年度の調査から始まったご縁を起点に、火起こしや薪割りの技術指導、キャンプファイヤーの資材手配や設営まで、地域の方々に並走いただきながらプロジェクトを進めてきました。「穴を掘る」という挑戦も、土地所有者の方ならびに活動に理解を示してくださった地元工務店の協力によって実現しました。起工式では宮司より地域の火祭りや神話につわる教えを授かり、文献調査で得ていた知識が実感を伴う体験へと結びつき、チームの結束を深めました。火や土を扱う本試みは、消防団をはじめとする地域の皆様の支えなくしては成り立たず、多くの方々の知恵と後押しにより、本番を無事に迎えることができました。

- 1 2 1.ガラージュ 夜の森穴火祭り
- 3 2.ガラージュ 本番パフォーマンス写真
- 4 3.humunus イメージ写真
- 4.humunus ツアー写真



パフォーマンスユニット
humunus



建築集団
ガラージュ

1 広野町の思い出の場所を紹介しよう

2 みんなでその場所に行く

3 あなたの思い出を語る

福島県双葉郡広野町
あなたのおもいでガイドツアー

参加者募集

HAMACUL ART PROJECT 2025
ブルーエゴナク 広野町民参加ワークショップ

私たちがアムモナイトは、2025年12月27日(土)に開催する「あなたのおもいでガイドツアー」は、参加者が自由に歩き回り、思い出を語り合えるガイドツアーです。広野町に暮らしている方、訪ねて来た方、遊んで来た方、感動を受けた方など、誰でもご参加いただけます。この活動は、町民の思い出を語り合える貴重な機会です。たくさんのご応募、お待ちしております！

いつもの道の、とくべつな物語 2025.12.13-14

HAMACUL ART PROJECT



分類 滞在制作型

事業者名 ブルーエゴナク

プロジェクト名 『広野町をガイドする』

活動地域 広野町



活動記録



事業紹介

広野町に滞在し、地域や人、そして時代を再び見つめる機会を創出。町民の方々が町内ゆかりの場所を“ガイドする”ワークショップおよび演劇上演により構成される。

事業の展望

広野町では、演劇公演の開催はあまり例がありません。公演をご覧になった方から、「初めて演劇を観たが面白かった」「もっと多くの人に観てもらいたかった」といったお声をいただき、受け入れていただけたと感じています。今後は、今作の再演や町民出演者を募集しての演劇創作、対象エリアを拡大してのワークショップ実施など、本事業をブラッシュアップする形での継続的な地域との関わりを想像しています。もう“はじめまして”ではない私たちがからこそできる方法で、町のこれからの伴走してゆきたいと考えています。

アーティストからの声 (ブルーエゴナク/加茂 慶太郎 俳優)

今回の広野町での滞在制作が、団体にとって初めての福島県および浜通り地区との接点となりました。町の皆さまのお人柄に支えられ、多くのお力添えもいただいで、無事に事業を実施することができました。交流を重ねるなかで見出した「まだ言葉になっていない」地域の課題感に対して、演劇の手法を通じて、我々なりに可視化することができた感触があります。公演には多くの方が足を運んでくださり、満杯となった会場は忘れることのできない光景です。普段の活動拠点からは距離がありますが、これからも心を寄せて過ごしていきたいと思います。

- 1
 - 2
 - 3
 - 4
 - 5
 - 6
 - 7
 - 8
- 1.ワークショップチラシ
2-5.ワークショップ風景
6.公演チラシ
7.公演舞台写真(ゲネプロ撮影)
8.集合写真



福島県双葉郡広野町
おもいでガイドツアー (演劇版)

HAMACUL ART PROJECT

アンモナイトのうたう丘

2025年
12月27日(土)
14:00 開演 13:45 閉演

広野町文化交流施設
ひろの未来館 2階 多目的ホール

入場無料・予約不要

この夜、福島県双葉郡広野町で内容制作の成果発表として、演劇作品を上演します。毎月15日(土)19:30に開催する「あなたのおもいでガイドツアー」では、参加者が自由に歩き回り、思い出を語り合えるガイドツアーです。私たちがアムモナイトは、2025年12月27日(土)に開催する「あなたのおもいでガイドツアー」は、参加者が自由に歩き回り、思い出を語り合えるガイドツアーです。広野町に暮らしている方、訪ねて来た方、遊んで来た方、感動を受けた方など、誰でもご参加いただけます。この活動は、町民の思い出を語り合える貴重な機会です。たくさんのご応募、お待ちしております！

ブルーエゴナク



分類 学生制作型
 事業者名 学校法人 東北芸術工科大学
 プロジェクト名 東北画は可能か?月歴画
 活動地域 檜葉町



事業紹介

「東北画は可能か?」プロジェクト15年目の取り組みとして、震災の記憶を持たない世代への継承を大切に、共同制作「月歴画」で浜通りの記憶と風土を絵画で描く。

事業の展望

2010年にスタートした「東北画は可能か?」のプロジェクトは今年で15年目を迎えました。多くの卒業生が巣立っていきましたが、今年の新メンバーは東日本大震災発災時には5歳です。今年度の活動を検討するミーティングにおいて複数の学生から震災に対する複雑な思いを聞く機会がありました。おそらくこれ以降のメンバーにとって東日本大震災は経験のない昔話になるでしょう。現在、私たちが取り組んでいる共同制作「月歴画」には様々な地域の人々の営みや風土が描かれます。浜通りの方々との交流や聞き取りを通して、これからも私たちが直面するであろう災害に対する大事な記憶を刻み込む共同制作を、浜通りの方々の記憶や風土と共に作り上げたいと願っています。

アーティストからの声（東北芸術工科大学日本画コース1年 菅野 すみれ）

相馬市出身の私にとって、今回は自分の故郷を改めて考え直すとても良い機会となりました。正直、震災や事故の記録と相対することとなったリサーチの時間は非常に苦しく、何度も心が引き裂かれるような感覚がありました。しかし、震災15年目を迎える節目の年に自分のルーツと必死に向き合い、それを制作から展示とイベントという形で昇華できたことで、自分の人生が着実に一歩進んだような気がします。この地に生まれ、アーティストを志す人間としてこんなにも恵まれた経験を積ませていただいたことに対して、心より感謝申し上げます。



1. 東日本大震災・原子力災害伝承館展示風景
2. 公開制作風景
3. ライブパフォーマンス風景
4. 月歴画とメンバーたち
5. THE LOCAL展示風景



- 1
- 2
- 3
- 4
- 5

1. 双葉町町民子供ワークショップ
2. Aチーム撮影風景「双葉町図書館前」
3. Bチームクランクアップ!「海の堤防」
4. Aチームクランクアップ!「双葉駅前」
5. Aチーム撮影風景「東日本大震災・原子力災害伝承館屋上」



分類 学生制作型

事業者名 株式会社 キネマ旬報企画

プロジェクト名 福島浜通りシネマプロジェクト 2025

活動地域 双葉町



プロジェクトサイト

事業紹介

2022年度の夏に経産省からの委託事業として始まった「福島浜通りシネマプロジェクト」は、一過性で終わることなく、10年間続けることを一区切りの目標として立ち上がった。復興の最中、年々移り変わる双葉町の姿を、プロの映画人と全国から集まった学生たちが共にカメラを通じて、「映画」という形で記録し続けるプロジェクトである。

事業の展望

変わりゆく双葉町にカメラを向け続けると同時に、今後は震災前から双葉町に伝承されてきた歴史や文化、そして震災以降、遠く離れた場所から双葉町に思いを馳せる人々の心の中にある「変わらない双葉町」の姿も改めて見つめ直す機会になっていくことができると考えています。

4年目を迎える今回は、双葉町民の子供たちが撮影にキャストとして参加してくださいました。町民が0人の状態から始まった本プロジェクトゆえ、念願の町民参加は大変喜ばしいことでした。このプロジェクトに参加してくれた学生やスタッフたちが今後も双葉町の変化に関心を持ち続け、ひいては近い将来、直接的・間接的な形で双葉の発展に貢献してくれることを切に願っています。

学生からの声

「地元の方にも深く関わっていただき、ここからこのプロジェクトは本格的に動き出すんだと改めて思いました。これからも続くプロジェクトにしたいと考え、今回はスタッフとして参加。目標は、今回参加してくれた子どもたちが学生になった時にこのプロジェクトに参加してくれること。実現したら泣きます。そんな形で、このプロジェクトが双葉町に根付いたらいいなと思います（学生リーダー参加者）」

「今回の作品のテーマは“プレゼント”。まさにこの5日間は自分にとってプレゼントのような時間でした（高校生参加者）」



分類 学生制作型
 事業者名 ガッチ 株式会社
 プロジェクト名 浪江学生デジタルアート道場 2025
 Digital Growth
 活動地域 浪江町



事業紹介

浪江町をルーツとし、松永窯店舗跡地を文化芸術拠点に「浪江学生デジタルアート道場 2025」を実施。デジタルアートを通じて学生と地域住民による世代を超えた交流と文化創造の場を構築する。

事業の展望

今後も継続的に学生を招致し、地域の活性化につなげていきたいと考えています。学生が地域に滞在し、制作や調査、交流を行うことで、新しい視点や発想が町にもたらされます。それは一過性のイベントではなく、人と場所の関係を少しずつ編み直していく力になると感じています。地域の方々との対話を通して、学生自身も学びや成長を得ることができ、双方にとって意味のある循環が生まれます。こうした取り組みを積み重ねることで、浪江町の持つ魅力や可能性を内外に発信し、持続的な活力を育てていきたいと考えています。

アーティストからの声（東京藝術大学美術学部 学部2年 深川 竜誠）

活動を通して、撮影技術が向上しました。1,200枚以上の写真と6時間を超える映像を記録する中で、焦点や絞りを操作し、あえて綺麗に撮らないことでイメージに湿度を宿らせる表現を身につけました。また浪江町での滞在を通じ、地域への意識が変化しました。書籍やインターネットでは得られない活気や、町民それぞれが未来を語るエネルギーを感じました。「被災に縛られず感性を信じて表現してほしい」という言葉をきっかけに、震災を一要素として受け止め、自身の感覚を大切に作品を構築できました。



1. 展示風景 アーティスト深川さん
2. 展示風景 アーティスト三澤さん
3. 展示風景 アーティスト鈴木さん
4. 虹チャリ試運転 アーティスト鈴木さん
5. 中間発表会「浪江町」





分類 学生制作型
 事業者名 日本大学理工学部
 プロジェクト名 “私”的世界遺産劇場
 活動地域 富岡町・南相馬市

事業紹介

地域の各所に劇場と呼ぶうる場をつくり、住民とともに即興演劇を上演。私的な世界遺産となる劇場を生み出す実験を繰り返し、建築・演劇の融合で新たな地域表現を創出する。

事業の展望

既存のコミュニティである食堂に入り込んだ即興演劇、芋煮会を行うことで地域の方々を集めた即興演劇、公共施設を用いて住民の皆さんに参加を求めた即興演劇と、段階を追って、場のづくり方とそこに暮らす人々との関わりを変化させながら実験を繰り返してきました。そのたびに、浜通りに劇場が立ち上がりましたが、これらの劇場が世界遺産となるにはまだまだ時間がかかりそうです。ただ、これらの実験により得られたものは大きく、それらの成果をまた、この浜通りに返す日が来ることを楽しみにしています。

アーティストからの声（日本大学理工学部佐藤慎也研究室 鈴木 祐介）

当時のメディアで見ていたほど震災の跡はなく、人の数や属性など、目に見えづらい形で街が変化している状況で、マレビトとしての私たちと福島の人たちという関係がありました。その中で劇場を軸に、アーティストの即興演劇と学生のリサーチを重ねていきました。普段の私たちは、東京のビルの一室で研究しています。机上での思考は簡単には通用せず、現地に行き、身体で感じたことを形にする経験が、劇場、そして建築にも通ずるものがあると気づけたことが大きな発見でした。更なる出会いや体験のために、継続的な機会を望んでいます。



1

2 3 4

5

- 1.寄り添い上演「ホテルひさご」
 - 2.リサーチ「富岡町」
 - 3.vision先行上演「大三食堂」
 - 4.コンセプト上演「富岡町文化交流センター 学びの森」
 - 5.東京上演「日本大学理工学部駿河台キャンパス タワー・スコラ」
- ※撮影：松室隆教 (1,2,3,5)

事業者開催企画・イベント一覧

▶ 一般社団法人 とおがったプロジェクト

2025.11.29-2026.2.10	葛尾村	葛尾村復興交流館あぜりあ	成果展「そこにあるもの」What Remains
2025.12.13-12.21	山形市	やまがたクリエイティブシティセンター Q1	巡回展「そこにあるもの」What Remains
2026.1.10-1.14	仙台市	せんざいメディアテーク	巡回展「そこにあるもの」What Remains
2026.1.23-2.6	東京都墨田区	うちの居間 分館	巡回展「そこにあるもの」What Remains

▶ Hi there 合同会社

2025.11.15	南相馬市	北泉海滨総合公園	フォトグラファーになろう
2026.1.31-2.8	双葉町	東日本大震災・原子力災害伝承館	ハマカルアートウィーク
2026.1.31	双葉町	東日本大震災・原子力災害伝承館	南相馬のフォトマップをつくろう
2026.2.5	双葉町	東日本大震災・原子力災害伝承館	フォトグラファーになろう②
2026.2.11	南相馬市	小高交流センター	南相馬のフォトマップをつくろう

▶ 合同会社 シネマ健康会

2025.9.19-9.23	川内村・楡葉町・富岡町・田村市		浜通りツアー 上映イベント&ワークショップ、ロケハン
2025.12.10-12.22	川内村・楡葉町・富岡町		映画制作
2026.2.6	富岡町	トータルサポートセンターとみおか	制作映画『兵器がある』ロケ地 試写上映会
2026.2.7	楡葉町	みんなの交流館 ならは CANvas	制作映画『兵器がある』ロケ地 試写上映会
2026.2.8	川内村	コミュニティハウスにじいろ地域文化伝承教室	制作映画『兵器がある』ロケ地 試写上映会

▶ 旅するたたき場

2025.12.10-12.21	東京都から楡葉町		徒歩旅行劇『青ぞらいっぱいの色無色孔雀／透明な人類の巨大な足跡』
2025.12.20	楡葉町	みんなの交流館 ならは CANvas	クリスマスコンサート
2025.12.21	富岡町	富岡町文化交流センター 学びの森	富岡演劇祭 打楽器奏者と美術家による星を鳴らすワークショップ
2026.1.12	楡葉町	みんなの交流館 ならは CANvas	秘密企画「くものうえの あそびのば」

▶ 松本 律子

2026.1.24-1.25	川俣町	おりもの展示館・機織り伝承室	川俣の民話語りを聞こう
2026.2.7	双葉町	東日本大震災・原子力災害伝承館	マリンバ演奏

▶ 永井 文仁

2026.1.17-1.18	浪江町	アトリエ	オープンアトリエ
2026.2.7-2.8	双葉町	東日本大震災・原子力災害伝承館	写真展示

▶ 一般社団法人 オムスビ

2025.10.5	南相馬市	KONNO	DIY ワークショップ
2025.10.12	南相馬市	KONNO	アーティストクロストーク
2026.1.12-1.18	南相馬市	KONNO	ワークショップ 大こたつ布団を広げる
2026.1.16	南相馬市	KONNO	DIY ワークショップ

▶ 秋元 菜々美

2026.1.31-2.8	双葉町	東日本大震災・原子力災害伝承館	ハマカルアートウィーク出展 humunus
2026.2.1	双葉町	東日本大震災・原子力災害伝承館	『うつほの襲』プロジェクト活動報告&井手 則雄 ー「鉄の詩人」と呼ばれた男が見た富岡町と原子力の未来
2026.2.8	富岡町	夜ノ森駅前	夜の森穴火祭り ガラージュ

▶ ブルーエゴナク

2025.12.13-12.14	広野町	多世代交流スペースぶらっとあっと 周辺	町民参加ワークショップ「あなたのおもいでガイドツアー」
2025.12.27	広野町	広野町文化交流施設 ひろの未来館	演劇公演『アンモナイトのうたう丘』

▶ 学校法人 東北芸術工科大学

2025.9.14-9.15	楡葉町	みんなの交流館 ならは CANvas	公開制作
2025.9.26-9.28	楡葉町	みんなの交流館 ならは CANvas	公開制作
2026.2.5-2.8	楡葉町	みんなの交流館 ならは CANvas	東北画は可能か?ハマカルアートプロジェクト2025 成果展
2026.2.8	楡葉町	みんなの交流館 ならは CANvas	トーク「東北画とは何か?」/ライブパフォーマンス「めぐるめく」
2026.2.4-2.14	山形県	THE LOCAL TUAD ART GALLERY	東北画は可能か?ハマカルアートプロジェクト2025 成果展

▶ 株式会社 キネマ旬報企画

2025.11.23-11.24	双葉町周辺		リーダーズキャンプ
2025.12.2-12.3	双葉町	駅西住宅集会所 周辺	町民子供ワークショップ
2025.12.16-12.20	双葉町全域	および フタバスーパーゼロミル	映画づくり体験
2025.12.20	双葉町	双葉町産業交流センター	映画上映会

▶ ガッチ 株式会社

2025.11.1-11.3	浪江町	浜通り地域デザインセンターなみえ 周辺	地域交流会
2025.11.3	浪江町	浪江町 STUDIO B-6	アート講義 vol.1 デジタルアートって何?爆走メディアアートの歴史と研究史 講演者：浅尾 栄氏
2025.12.12-12.14	浪江町	ふれあいセンターなみえ	中間発表会
2025.12.12	浪江町	震災遺構ギャラリー 「松永陶芸館」	アート講義 vol.2 実践から見る” 地域を表現する” アート 講演者：齋藤 精一氏
2026.1.10-1.12	浪江町	震災遺構ギャラリー 「松永陶芸館」	プレ展示会
2026.1.12	浪江町	浪江町 STUDIO B-6	アート講義 vol.3 心と手：人とテクノロジーの関係性をめぐる研究・ 作品づくりと、浪江町との対話 講演者：中垣 拳 氏
2026.2.6-2.8	浪江町	震災遺構ギャラリー 「松永陶芸館」	デジタルアートで浪江の記憶と未来を紡ぐ作品展示会
2026.2.7	浪江町	道の駅なみえ	アート講義 vol.4 ここからどうする?浪江で芸術祭 講演者：田島 悠史氏

▶ 日本大学理工学部

2025.11.1	南相馬市	大三食堂	第1弾 チーム vision 先行 上演
2025.12.20	富岡町	ホテルひさご	第2弾 チーム寄り添い 上演
2026.1.18	富岡町	富岡町文化交流センター 学びの森	第3弾 チームコンセプト 上演
2026.2.8	東京都	日本大学理工学部駿河台キャンパス タワー・スコラ	第4弾 東京上演



HAMACUL ART PROJECT 2025 トークイベント vol.4

「福島とアートで交わる」

開催日 2025年11月27日(木) 18:30~20:30

開催場所 City Lab TOKYO

協力 City Lab TOKYO

開催主旨 「12市町村において、アートはどのような意味や力を持ちうるのか」。
 ハマカルアートプロジェクトは、この間に3年間にわたり向き合ってきました。
 本プロジェクトは経済産業省の補助事業として、被災地におけるアートの責任と
 心を動かす力を信じ、地域に創造のきっかけを生み出すことを目指しています。

概要 アートには心に働きかけ、人生や生活を豊かにする力があります。今回のトークイベントでは、
 東日本大震災の被害を受けた地域と交わる3名が、それぞれの実践や経験をもとに、
 この地においてアートがもたらすものについて語り合いました。

登壇者 ゲストスピーカー 畠山直哉(写真家)
 スピーカー 三瀬夏之介(学校法人東北芸術工科大学 教授)
 秋元菜々美(双葉郡地域コーディネーター)
 モデレーター 森健太郎(Katsurao Collective ディレクター)
 実施報告 参加者 32名



HAMACUL ART WEEK 会場写真



HAMACUL ART WEEK(ハマカルアートウィーク)

会期 2026年1月31日(土)~2月8日(日)
 開催場所 東日本大震災・原子力災害伝承館 および 福島県内外各地
 共催 東日本大震災・原子力災害伝承館
 主旨 本イベントは、浜通り内をめぐり、アートと人、アートと地域、人と人、人と地域が出会うことで、
 未来に向けてつながるきっかけとなることを目指しています。
 概要 会期中は浜通り全体を会場として、ハマカルアートプロジェクトの採択事業者が各地で展示、
 報告会、ワークショップ等を実施しました。現地に滞在し、対話し、創作したアーティストたちの
 視点を通じて、浜通りで生まれた新たなつながりを追体験できた、9日間となりました。
 特設会場となる東日本大震災・原子力災害伝承館(双葉町)では、本事業のこれまでの実績や
 取組紹介、各事業者の紹介を一堂にご覧いただけるほか、トークイベントやパフォーマンス等の
 地域やアーティストと来場者の皆様が出会い、つながる企画を実施しました。

- トークセッション
- 第1回 1月31日(土) 14:15~15:15
 アーティストトーク
 日本大学理工学部、永井文仁、Hi there 合同会社
 - 第2回 2月1日(日) 13:00~14:00
 アーティストトーク
 秋元菜々美、一般社団法人とおがったプロジェクト、日本大学理工学部
 - 第3回 2月7日(土) 13:00~14:30
 クロストーク「まちづくり×アート」
 小田井真美、森山貴士、山本暁甫
 - 第4回 2月8日(日) 15:35~16:45
 クロストーク「ハマカルアートプロジェクトのこれまでとこれから」
 菅野幸子、志村環太、森健太郎、横須賀直生
- ワークショップ
- 1月31日(土) カメラトラック体験会 永井文仁
 - 2月1日(日) カメラトラック体験会 永井文仁
 パフォーマンス 一般社団法人とおがったプロジェクト
 トークイベント 秋元菜々美
 - 2月5日(木) 写ルンですワークショップ Hi there 合同会社
 - 2月7日(土) マリンバ演奏 松本律子
- 実績報告
- 特設会場 来場者数 3,276名 ※期間中の会場来場者数をAIカメラにて測定



- 同時開催
- 概要 福島県内外で開催される各事業者の展示・イベントを巡ってもらうスタンプラリーを実施
- スタンプ設置会場
- ①葛尾村復興交流館あぜりあ(葛尾村)|一般社団法人とおがったプロジェクト
 - ②コミュニティハウスにじいろ地域文化伝承教室(川内村)|合同会社 シネマ健康会
 - ③みんなの交流館 ならはCANvas(楡葉町)|合同会社 シネマ健康会/東北芸術工科大学
 - ④トータルサポートセンターとみおか(富岡町)|合同会社 シネマ健康会
 - ⑤夜ノ森駅前(富岡町)|秋元菜々美
 - ⑥震災遺構ギャラリー「松永陶芸館」(浪江町)|ガッチ 株式会社
 - ⑦うちの居間分館(東京都)|一般社団法人とおがったプロジェクト
 - ⑧THE LOCAL TUAD ART GALLERY(山形県山形市)|東北芸術工科大学
 - ⑨東日本大震災・原子力災害伝承館(双葉町)|ハマカルアートプロジェクト事務局

Comments



AIRLab

ハマカルアートプロジェクト
プログラム・ディレクター

菅野 幸子 さん

「福島とアートで交わること」

ハマカルアートプロジェクトは、今年で3年目を迎えます。この3年の間に、51件に上るプロジェクトが展開され、数多くのアーティストや学生たちが、浜通り地方に滞在しながら、多彩な創作活動を実践し、福島という土地にアートで真正面から対峙し、交わってきました。その過程において、地域の方々との出会い、交流や対話の中から創作への発想や刺激を受け、創造力に満ちた個性豊かな作品群を生み出してきています。本プロジェクトの特徴となっている滞在型創作活動でなければ生み出せない実践の中から豊かな成果が結実し始めているのです。作家の川内有緒さんは、浜通りの食にまつわるエピソードを紡ぎ出し「ロココ・キッチン」という映画と小説を生み出しました。日本大学理工学部の学生たちや東北芸術工科大学の学生たちは、地域の方々との交流や対話を通じ、前者は演劇のWSを通して地域への理解を深め、後者は新たな東北画を出現させました。俳優や映画製作を志す学生たちは、映画界の未来を担う若い映画人と一緒に、短編映画の創作を一から体験することにより自分の未来の姿を明確に描き始めています。本プロジェクトの実践を通じ、人間の心を豊かにする文化芸術の力があってこそ、私たちの社会や地域はより豊かな未来を描けることを改めて実感させられています。



KatsuraoCollective
事業統括・ディレクター

森 健太郎 さん

ハマカルアートプロジェクトでは、アーティストや事業者による地域での多様な実践を継続的に支援してきました。アーティストや事業者が熱意をもって地域で活動を展開することは、福島県12市町村に暮らす人々の心に寄り添うだけでなく、復興に不可欠な「日々の生活」という土壌を耕し、豊かにしていく営みでもあります。プロジェクトの舞台である福島12市町村は、現在もお復興の途上にあります。地域ごとに状況の違いはありますが、被災によって喪失したインフラが長い時間をかけて再建されてきたように、人々の生活もまた、日々の営みを積み重ねるなかで徐々に取り戻されつつあります。本事業を通じて行われた多種多様な実践が、この地の日々の営みの中にゆるやかに組み込まれ、アートが将来にわたって地域の日常に根づいていくことを願っています。



公益財団法人セゾン文化財団

稲村 太郎 さん

福島県の浜通りでアーティスト・イン・レジデンスを行う意義とは、一体どこにあるのでしょうか。それは、表現の種を蒔く担い手が増え、やがてその芽が地域の文化芸術として根付いていくプロセスそのものにあると感じています。

演劇に目を向けると、地域固有の物語を住民とともに紡ぎ上げる試みや、劇場の存在しない町に「上演」という光を灯す活動、そして土地の記憶を掘り起こして未来を想像する事業など、多様な挑戦が見られました。

かつては「点」であったプロジェクトが、昨年からの継続によって住民との深い絆を結び、さらにそれらが「アートウィーク」というかたちをとることで、浜通りにいくつもの活動が重なり合う「複線化」の景色が現れ始めています。

文化芸術がただの鑑賞で終わるのではなく、地域の経済や暮らしを支える新たなセクターとして息づいていく、未来を願っています。



一般社団法人

コミュニティシネマセンター

岩崎 ゆう子 さん

私は、このアートプロジェクトの中で、特に“映画”に関わるプロジェクトを見させていただいています。映画は、アートであると同時に優れた記録メディアでもあります。双葉町や葛尾村等で行われた制作ワークショップはそれ自体、非常にレベルの高い、意義深いものでした。同時に、その中で作られた映画作品には、浜通りの“現在”が否応なく投影されていました。また、3年間でいくつかのドキュメンタリー映画が作られました。これらはまさに、変化を続ける浜通りの貴重なドキュメントであり、福島県内はもとより、県外各地、海外の映画祭でも上映され、浜通りの“現在”を伝え、多くの人々が浜通りへ思いを寄せています。これらの映画作品は年を経るとともに、かけがえのない地域の記録、記憶となっていく。これはこのプロジェクトが継続される中で達成した重要な成果だと感じます。



さっぽろ天神山アートスタジオ

小田井 真美 さん

本事業を解説する一文にある「(前略) 12市町村全体として復興は進展しつつある一方、依然として人口、経済などあらゆる面に東日本大震災や原子力災害の痕跡が色濃く残っており、まだまだ挑戦していかなければならない課題があります。」の地域で、アート活動を担ったアーティスト、企画者、学生は、この地域に一定期間滞在することができました。そこに生きた、生きている人たちの営みをただ眺めるのではなく、触れようとし、踏み込もうとしました。本事業では、関わるひとりひとりが地域をまなざし、その触れ方、踏み込み方の慣れや想定を一旦手放して、いちから考える機会になったと思います。この地域に自分を接続させて獲得した新しさを、作品やプロジェクト、活動を通して他者に伝えられたら、また新しい接続が生まれてくるのだらうと思います。

謝 辞

※敬称略・自治体を除く団体は50音順

田村市 一般社団法人おおくままちづくり公社
南相馬市 一般社団法人かわうちラボ
川俣町 一般社団法人とみおかプラス
広野町 一般社団法人ふたばプロジェクト
楡葉町 一般社団法人まちづくりなみえ
富岡町 おれたちの伝承館
川内村 小高パイオニアヴィレッジ
大熊町 川俣町中央公民館
双葉町 広野暮らし相談窓口「りんくひろの」
浪江町 コウド舎
葛尾村 時の海 - 東北プロジェクト 有限会社宮島達男事務所 富岡町オフィス
飯館村 双葉屋旅館
道の駅かわまた
道の駅ならは
道の駅なみえ
町分アーカルベース（旧町分オルタナギャラリー）
表現からつながる家「粒粒 - つぶつぶ」
浜通り地域デザインセンターなみえ
富岡町文化交流センター 学びの森
ふれあいセンターなみえ
cafe&gallery 秋風舎
CREVA おおくま
Kashiwaya シェアハウスと食堂
Katsurao Collective
ご協力いただいたすべての皆さま

書 名 ハマカルアートプロジェクト 2025 記録集

発行日 2026 年 3 月

監 修 菅野 幸子 森 健太郎

発 行 株式会社 Wsshoi Lab

〒981-2165 宮城県伊具郡丸森町西 22-2

ハマカルアートプロジェクトホームページ <https://hamacul-project.com/>

Instagram @hamacul_art_project

Facebook @hamaculartproject

本書の全部または一部について、著作権法上認められた場合を除き、著作権者の許諾なく、転載、複製（コピー）、スキャン、デジタル化、配信、翻訳、翻案等を行うことを禁じます。

ハマカルアートプロジェクト 2025 記録集

本事業は、経済産業省「地域経済政策推進事業費補助金（映像芸術文化支援事業）」に採択され、株式会社 Wasshoi Lab が運営しております。